

令和元年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

潮来市 解答と解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解 説	答
1	宮本茶村(みやもと ちゃそん)は、1793年(寛政5年)潮来村に生まれ、幼い頃から聡明で勉学に励み、16歳頃に兄とともに江戸に出て勉強しました。その後、潮来に戻って「恥不若」(ちふじゃく)という塾を開きました。	2
2	水郷旧家 磯山邸は、明治時代に建てられ潮来市が管理している日本家屋です。市民や観光客の交流拠点として、潮来祇園祭礼に併せて休憩所として開放したり、ひな飾りや花嫁衣装を展示したりしています。	4
3	長勝寺の裏山にある稲荷山神社には、「おれは河原の枯れすすき」で始まる潮来船頭小唄で有名な野口雨情(のぐち うじょう)の詩碑があります。	2
4	潮来市立ボートセンターあめんぼは、今から45年前の1974年(昭和49年)に開催された茨城国体に合わせて前年の1973年(昭和48年)に完成し、2002年(平成14年)のインターハイ開催の際に行われた大規模改修により現在の姿になりました。	1
5	いたこあやめ花街道は、茨城県潮来市の国道51号、茨城県道101号、潮来市道を中心としたエリアであり、茨城県内で2ルート目となる日本風景街道に登録されました。	3
6	小堀 進(こぼり すずむ)は、1904年(明治37年)に行方(なめがた)郡大生原(おおはら)村(現在の潮来市)で生まれました。郷里の霞ヶ浦・水郷をはじめとした国内外各地の風景を、鮮やかな色彩と単純化した大胆な構図でダイナミックに描き、水彩画界の発展に大きな影響を与えました。	4
7	毎年5月の下旬から1か月間、前川のあやめ公園で行われている水郷潮来あやめまつりには、毎年約80万人の観光客が訪れています。歴史と伝統があるまつりで、今年で68回目の開催となります。	2
8	島崎(しまざき)氏は、大掾(だいじょう)氏の流れをくむ豪族で戦国時代の武将です。島崎城は、15世紀前半、島崎成幹(しまざき なりもと)が築城した城です。	3
9	長勝寺(ちょうしょうじ)は、1185年(文治元年)に源頼朝公(みなもとのよりともこう)(1147年～1199年)が武運長久(ぶうんちょうきゅう)を祈願(きがん)して創建(そうけん)したと伝えられています。	2
10	マコモタケは、イネ科マコモ属の多年草で別名ハナガツミとも呼ばれています。東アジアに広く分布し、日本でも全国の河川や湖沼の水辺に群生しています。	3
11	旧所家住宅は、潮来市日の出地区にある唯一の県指定文化財で、1972年(昭和47年)東茨城郡桂(かつら)村より譲り受けました。この住宅は、向かって右側を土間とした曲屋状の平面をもつ農家で、全国的にも珍しいと言われている居住部(広間・座敷・納戸)と土間部を別棟とした分棟型民家の一例として注目されています。	1
12	潮来市の花に制定されている花はアヤメです。昔から潮来はアヤメで知られてきました。アヤメは、5月から6月にかけて、日当たりの良い水辺や湿地に育成する多年草で、紫色の花が咲き多くの歌や俳句等に使われています。	4
13	一番星は、大粒で、モチモチした食感が特徴で、冷めてからも美味しさ変わらず、おにぎりにも最適なお米です。4月上旬に田植えが始まり、8月上旬には、稲刈りが始まります。	4
14	津軽河岸(がし)あと広場は、江戸時代に津軽藩が物流拠点として使っていた津軽河岸(がし)跡を広場に整備した施設です。広場は面積2,100平方メートルで、船着き場があります。津軽藩は江戸時代、太平洋、北浦を経て運んだ年貢米などを前川の津軽河岸(がし)船着き場で荷揚げし、別の船に積み替えて利根川を経て江戸方面に運んでいました。	2
15	葛飾北斎(かつしか ほくさい)は、江戸時代の絵師です。常州牛堀は、三熊野(みくまの)神社の河岸からながめて描かれたとされています。	3
16	潮来市の水源は、潮来地区も牛堀地区も北浦を水源としています。	1
17	関戸覚蔵(せきど かくぞう)は、1844年(天保14年)に潮来市に生まれました。1867年(慶応3年)に潮来村の戸長(こちょう)(村長のこと)となり、土地と税金の問題解決に力を注ぎました。1891年(明治24年)に、新聞の役割の大切さに気づいた覚蔵は、今の茨城新聞社をおこし、最初の社長になりました。	4
18	権現山(ごんげんやま)は、茨城百景にも選ばれたサクラとツツジの名所で、展望台からは北利根川沿いに広がる市街地や霞ヶ浦を一望できます。	2
19	江戸時代、徳島一帯では、漁場や農耕地の利権論争、耕作権の問題で紛争が絶えませんでした。しかし、1672年(寛文12年)7月27日にこの紛争に対して江戸幕府評定所より、この地は水戸南領に属するという裁決があり、村人はこれを喜び合い、1673年(寛文13年)に相撲業を延方(のぶかた)村鎮守鹿嶋吉田神社に奉納したことに始まり、江戸勸進相撲の格式をもって今日延方相撲(のぶかたずもう)として伝えられています。	3
20	2019年(令和元年)9月から10月にかけて開催された「いきいき茨城ゆめ国体2019」で、潮来市で行われた競技はオープンウォータースイミング・トライアスロン・ボートの3競技です。	1
21	昔から水郷潮来と呼ばれ米どころとして有名だった潮来市では、江間(えんま)と呼ばれる水路がたくさん通っていて、農家の人たちはさっぱ舟を使って行き来したり、荷物を運んだりしていました。	2
22	須田誠太郎(すだ せいたろう)は、1881年(明治14年)牛堀に生まれました。当時は、3年に1度しか満足に米が獲れず、水害常襲地帯(すいがいじょうしゅうちたい)であった行方(なめがた)郡を守るため、村(町)長、県議を務めながら治水事業(ちすいじぎょう)を推進しました。横利根閘門(よことねこうもうん)の完成のために尽力し(1918年(大正7年)に完成)、治水(ちすい)の父と呼ばれ、その功績をたたえて現在も北利根橋のたもとに石碑(せきひ)が建てられています。	4
23	潮来市にある二本松寺は、6月中旬から7月中旬にかけて、約100種類・10,000株のあじさいが見事に咲き誇ることで有名です。	1
24	国神社(くにがみじんじや)は、1326年(嘉暦(かりやく)元年)、大洗磯前神社(おおあらいいそさきじんじや)の御分霊(ごぶんれい)を迎えて鎮斎(ちんさい)。1395年(応永2年)氏子(うじこ)が雄獅子(おじし)、雌獅子(めじし)、中獅子(なかじし)の三体を寄進(きしん)したことから始まり、毎年11月23日の祭事には、笛・太鼓・舞手(まいて)・天狗(てんぐ)・おかめ・ひよっとこから組み立てられている獅子舞(ししまい)が奉納(ほうのう)されています。	3
25	道の駅潮来では、潮来市で作付けしたお米・夢十色(ゆめといろ)を使ってベトナム料理の米粉麺(こめこめん)フォーを開発しました。	4